

第3次創甲斐教育推進大綱（案）に対する意見・提言について

1 パブリックコメントの実施結果について

- (1) 実施期間 令和6年12月16日(月)～令和7年1月8日(水)
- (2) 受付件数 0件

2 議員からの意見・提言について

- (1) 実施期間 令和6年12月13日(金)～令和6年12月27日(金)
- (2) 受付件数 2件
- (3) 意見・提言の内容及び市の考え方

No.	頁	意見・提言の内容	市の考え方
1	8	生涯学習・文化活動の推進 アンケート 高校生～市外へ移りたい～魅力のある施策の必要性（第1期こども計画アンケート資料より） 高校生になると、市外へ移りたいという意見が多くなる。これは高校卒業後に市外(県外)へ移ることに繋がる要因の一つではないか。そのための対策の一つとして、公共施設の使い道を見直し、中高生が学習や文化活動に利用できる居場所をつくるべき。	中高生が学習や文化活動に利用できる居場所づくりについては、幅広い年齢層を対象にした各種講座等を開催するほか、市民ニーズに対応した学習活動や体験活動を実施し、多様な生涯学習機会を提供するなど、生涯学び、活動できる環境の整備・充実に努めてまいります。また、若年層の転出抑制に係る施策については、現在策定中の「第3次甲斐市総合計画」の重点戦略における戦略的な取り組みに掲げ、進めてまいります。
2	—	高校との連携 施策として中学生までを対象とするものが多いのではないか。高校卒業後の人口流出を考えると、この視点は外すことはできない。中学生までを対象とするのではなく、高校生世代のニーズに沿う政策を高校と連携し行うべき。(例 大学進学後に就職先となる地元企業の紹介など) また、大綱案策定にあたり行ったアンケートは、丁度高校生世代の15歳から18歳に対して行っていないことは、この世代の若者への政策を検討するうえで重大な欠陥である。このことから、所管が違うなどを理由にせず、高校と連携をとるべき。	本計画は、教育基本法の規定に基づく本市の教育振興基本計画、また、教育大綱として本市の教育施策の根本となる基本理念や基本目標等を定めるものであります。 そのため、本市教育委員会が所管する施策を対象としており、市長部局が所管する施策につきましても、本計画に関連するものについては、関係部局と連携して推進してまいります。

No.	頁	意見・提言の内容	市の考え方
3	12	ふるさとへの愛着、活躍できる人材 ふるさとへの愛着心の醸成については、 歴史を学ぶ「知識」より「かかわる(体験する)機会」を設けるべき。(例 「若者議会」 のようなまちづくりへ参画やボランティア参加など体験できるもの。)	「わたしたちの甲斐市」や「ふるさと山梨」 等の教材を活用しながら、校外学習や 地域人材、地域教材を取り入れた学習を 推進し、また、体験的、対話的な学習を 通して、子どもたち一人ひとりが地域に 愛着を持ち、よりよいまちづくりやボラン ティア活動に参画しようという意欲を育て る授業の充実を目指してまいります。 また、本計画では、基本目標 1-2-(1)グロ ーバルに活躍する人材において、様々 な活動を通して、自己肯定感や自己有 用感を育み、一人ひとりの子どもたちの可 能性や才能の伸長を図る施策について も記載し、ふるさとに誇りや愛着を持ち、 活躍できる人材の育成に取り組んでまい ります。
4	13 ・ 32	生涯学習の場所の提供、多くの市民の学 び、文化活動ができる場所、生涯学習施 設の整備 機材等の充実、DX 推進を掲げる以上、そ の一環としても通信環境として Wi-Fi 整備 はこれからの時代必須。行政手続きのオ ンライン化の流れからも公民館等利用時 の予約、利用料決済のオンライン化を導入 すべき。 また、公共施設の活用方法、利用者の少 ない施設の活用目的を見直し、ニーズの ある施設へ整備。	市民のニーズが多様化・複雑化し、サー ビスの質や利便性の向上が求められる 中、教育分野においても、デジタル化に よる効率化や生産性の向上が課題となっ ております。本計画では、基本目標 3-4- (2) 教育分野における DX の推進におい て、行政手続きのオンライン化について 記載し、教育分野においても DX の推進 を進めてまいります。 また、令和 5 年度における公民館の稼働 率は平均で 82.8%となっており、稼働率 の低い山間部の3施設につきましても、 地域の交流の場、学習の場として活用さ れていることから、今後も快適に利用でき るよう、適切に維持管理を行うとともに、 関係団体との連携を図ってまいります。
5	15 ・ 16	基本目標 3 基本方針 4 の施策項目 (1)GIGA スクール構想の推進の施策の内 容に、②として SNS の利活用について追 加してはどうか。 (子どもの交流サイト(SNS)の発信による ネット空間で様々な問題が起きている)	GIGA スクール構想の取組が進み、児童 生徒の ICT 活用の技能は高まっていま すが、ご意見のとおり、適切な利用につ いては更なる指導が求められています。 本計画では、基本目標 1-1-(1)確かな学 力の育成の⑤情報活用能力の育成にお いて、デジタル技術を理解し、情報と情 報技術を適切に活用する能力の育成に ついて記載し、デジタルリテラシーの育 成を図ってまいります。

No.	頁	意見・提言の内容	市の考え方
6	30	キャリア教育について 職場体験は受け入れ先の確保、時期のマッチングが難しいのではないかと。将来の進路選択の資料として、若い人材を求人したい地元企業と協力し、将来の人材確保のための「お仕事紹介」の動画を作成し、IT 端末で好きなときに自由に見ることができるようにする。将来希望する進路について、希望する仕事に必要なスキル・知識を学ぶための進学先などが具体的に知ることができるよう IT 端末を活用する。	近年、教育に関するデジタルコンテンツが充実しており、様々なサイトにアクセスすることで、職業に関する教育について多くの情報を得ることができます。 今後は、ICT を活用する中で、地域人材、企業等の協力を得ながら、体験的な活動を重視したキャリア教育を推進してまいります。
7	33	青少年の健全育成の推進 近年、若者の意識として「自己肯定感が低い」ことが言われる。そのためには、「成功体験」「人の役に立つ」「夢をかなえる」経験をさせることが重要ではないかと。そのための機会となるものを提供すべき。（若者議会、ボランティア参加など）	異年齢の中で自主性を培うことを目的として、市内の各地区（竜王・敷島・双葉）の子どもクラブ連絡協議会を中心に、ジュニアリーダーを含む小学校4年生から中学生に対し、交流研修会や野外活動を行っております。また、その中で、自身で考え、目的を達成することや協力して、成功に結び付けることなども行っております。 本計画では、基本目標 2-1-(2)青少年健全育成の推進の①青少年活動の活性化において、内容を記載し、引き続き取組を推進してまいります。
8	46	多様な学びの実現 不登校児への施策～「何を目的とするか」年々増え続ける、学校に行くことができない子どもたちにとって、一番重要なものは何か。それは「学校に戻る事」ではなく、その子どもたちの「将来進みたい道」であり、それを繋げてあげることが重要である。また、オークルームなどの支援教室にさえいけない子どもたちの受け皿はどうするか。宇都宮市の「U@りんくす」では、支援教室にさえ行くことのできない子どものためにメタバースを活用し、子どもたちを「学校へもどすこと」を目的とせず、子どもたちの将来の夢に繋げる支援を行っている。参考にされたし。	オークルームを含め、様々な選択肢があることが、子どもたちの学びの機会を広げることにつながるため、本市においても、メタバースによる学習機会充実のための取組を進めております。 本計画では、基本目標 3-1-(3)多様な学びの実現において、内容を記載し、今後もオークルームでの受け皿や校内教育支援センターでの学習機会を保障しつつ、メタバースの利活用の推進を図ってまいります。